THE PATRIOTIC LADIES MOME FORTNIGMTLY.　NO. 201.

愛國婦人

創刊明治卅五年三月廿七日●明治卅五年三月廿七日第三種郵便物認可●毎月二回（五日廿日）發行●電話番町千七百四十五番●同五百廿番●遞送無料●振替貯金口座壹壹弐一番

定價一部三錢五厘●半年分金四十二錢●一年分金八十四錢●廣告料一行金六十錢●發行所東京麹町區牛ヶ淵公園内愛國婦人會發行所●發行兼印刷人山澤俊夫●編輯人竹内貞三

明治四十三年五月二十日發行　May. 20th. 1910.

愛國婦人會第九回總會に對し

皇后陛下より賜はりたる

御令旨

本日愛國婦人會の總會に臨み本會々員の年を逐ふて增加するを見るは欣喜の至りなり

奉答

愛國婦人會第九回總會に際し

皇后陛下親臨あらせられ優渥なる令旨を賜ふ　陛下夙に戰死者の遺族並癈兵の救護に軫念あらせられ本會の事業に庇護を賜ふ一日にあらず智惠子等誠に感激に堪へず益々盡瘁して　陛下の懿旨に副ひ奉らむことを期す謹みて奉答す

明治四十三年五月九日

愛國婦人會總裁

載仁親王妃智惠子

富美宮允子内親王殿下　　朝香宮鳩彦王殿下

奉祝の辭

春深く緑の葉かげ色いよ／＼濃やかに瑞雲靆き薫風渡る大内山、竹の園生の御榮えの年と共に彌まさらせたまふこそめでたけれ。茲年明治四十三年五月六日しも今上陛下第八の皇女富美宮允子内親王殿下と朝香宮鳩彦王殿下と御成婚の大典を擧げさせたまふ。あなたうと、雲の上の事はかけまくもいとかしこけれど東宮殿下が、中頃まれなりし御例を其かみにかへさせたまひて、一夫一婦の道を守らせられ、一般國民に家庭の模範を垂れさせたまひしをはじめとして、かく年をかさねてめでたき御大禮を仰ぎ奉るかしこさ。寳田の千代田の城の奥深くきこしめされ御覽なはしましますらむ　聖上皇后兩陛下の大御心は申すも畏しや、大八洲の内外をかけて山のくま／＼磯のさきさきこの大御榮え傳へ承りては、貴きも賤しきも心一つに、たゞ敬ひ畏みてぞことほぎ奉る。あはれ、大内山賢所の大御前に王殿下の深く遠く思しはからせたまひて、恭しく奏せさせ給ひけむ。その御言のまゝに、御兩柱の宮の御中らひは常磐の松のいや御こまやかに、御ことぶきに南の山の限りも知られず立ち並びましまして、我が大君の御代の護りと、榮えさせ仰がしめ給ふらむ御事をば、恐れ畏みながら長に言祝ぎまつるになむ。

奉祝の歌

伯爵　東久世通禧

かくしつゝ仰きてしかな並たてる
まつの葉色のよろづよまでも

本居　豐穎

天の原はねうちかはしとふつるの
千代の契りそはてなからまし

坂　正臣

山の井の影にも見ゆるよろつよを
ふしつあふきつ祝ふけふかな

千葉　胤明

朝香山かけすくつれすとこしへに
かはらぬ契りむすびたまはん

遠山　英一

年々にたけのそのふのみさかえを
ほきまつるこそ嬉しかりけれ

本號主要目次

▲愛國婦人會第九回總會に賜はりたる御令旨……
▲同總裁宮殿下の奉答文……
▲富美宮内親王殿下と朝香宮殿下（寫眞版）……
▲奉祝の辭……
▲奉祝の歌……東久世伯、本居豐穎、坂正臣、千葉胤明、遠山英一
▲愛國婦人會第九回總會の狀況……
▲兒童を尊敬せよ……オベリン大學總長キング博士
▲昔を忘れぬ心懸……後藤遞相夫人
▲福岡支部第一回總會の狀況……男爵夫人關郁子
▲膓窒扶斯は斯の如くして傳染す……醫學博士　柴山五郎作
▲家庭叢談（三）……三　千子
▲かまくら（完）……訓　子
▲隱れたる美譚……深川　淚雄
▲夏の献立……
▲講談勝田新左工衛門（續き）……大島　光利
▲外に和歌、俳句、日誌等及附錄本會記事三頁並に特別附錄

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第九回總會

薄曇りの空雨ともならず、葉末を渡る初夏の風快き五月九日、躑躅の花、藤の花、今を盛りと紅紫白とり〴〵に咲き亂れたる日比谷公園にて、わが愛國婦人會第九回總會は擧行せられたり。

當日は　皇后陛下の行啓並に　陛下の御誘引により東宮妃殿下にも御台臨の催あり其他總裁宮妃殿下及各宮妃殿下の台臨あり、親しく會の盛況を觀はする筈にて、それ〴〵奉迎の準備其他諸種の設備に怠なかりしが、英國皇帝陛下崩御に就き、宮中喪仰出させられし爲め、俄に行啓、台臨共に御見合せとなりこの光榮に接し得ざりしは會員一般の誠に遺憾とする處なり。されど御令旨は特に御下賜くだされたるぞ、かしこしとも賢こし。

參會者は午前七時頃より早くも陸續として會場に繰り込みぬ。本部支部の各休憩所は直ちに會員を以て埋められぬ。三笠山なる廢兵遺族の休憩所には義手、義足の壯丁のかよわき人に扶けられて來會せるもの、此處の草叢、彼處の木陰に立ち憩へる老翁等殊に同情を惹くものあり、來賓を始めこの盛典に參列せんと集ふもの、實に約一萬五千人と數へられたり。

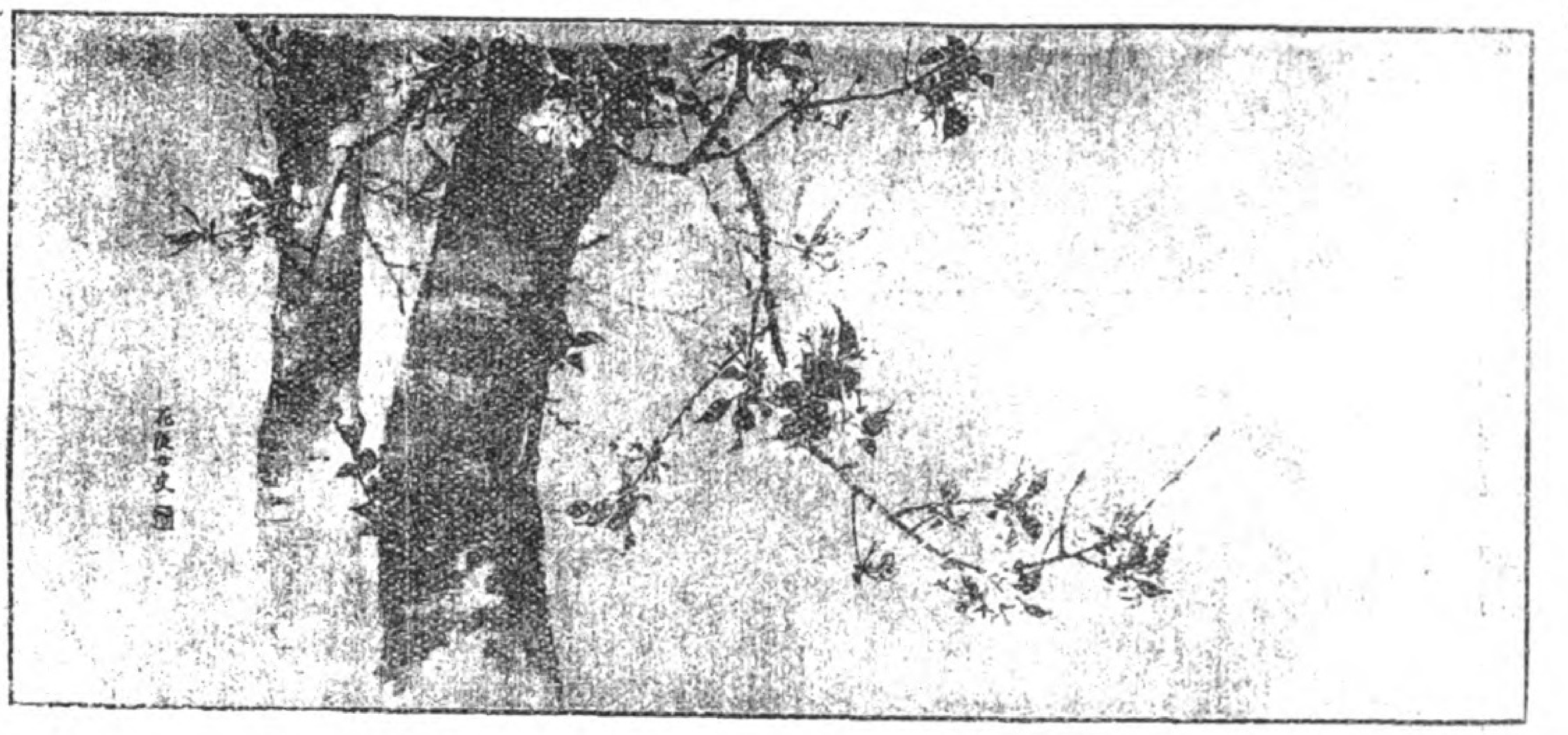
見渡せば、日比谷の正門には大緑門建ち、周圍には紅白段々の幕を張り、テント張りの休憩所には、各支部の銘旗輕く風に飄る。式場は壯麗にして而も質素なる西洋館式の建物にて、周圍を葭簀にて圍ひ、縁一面に杉葉もて彩り、欄干は見る目心地よき青竹を以てし、三方の階段には白布を敷き、正面玉座の背後には一雙の金屛風を繞らす。

軈て午前十時半となり、鈴の音勇ましく定刻を告ぐるや、會長岡部子爵夫人を先頭に、副會長阿部伯爵夫人、岡部法相、鳥井子爵、波多野、關の兩男爵、周布神奈川縣知事、德久恒範、山田春三等の各顧問諸氏、其他理事、評議員、各支部長等玉座の左右に整列され、紺色の洋裝せる閑院宮御用掛吉田榮子氏　皇后陛下の御令旨及總裁宮妃殿下の奉答文を捧げて、恭しく正面の机上に安置さるゝや、理事濱尾男爵夫人は靜に起つて會長に代り　開會の辭を朗讀され、次に馬屋原事務總長式次の變更を通告さる。畢りて岡部會長は瀟洒なる紺色の洋裝もて、徐々として玉座の正面に進み、恭しく令旨を捧げもちいと朗かに奉讀され、幾千の會員唯寂として畏れ賢こむ。次に阿部副會長は靜かに進みて總裁宮妃殿下の奉答文を謹讀さる。會集彌々靜かに停立して一語を發せず。最後に理事三輪田眞佐子刀自は老軀を式上正面に運び、會務及會計の長き報告書を朗讀され、斯くて濱尾理事の閉會の辭により、午前十一時、和氣藹々の間、式は芽出度く終を告げたれば、一般會員は饜に入場口にて渡されたる、總裁宮妃殿下御染筆の美しき記念品を始め、第九回總會報告書袋其他本紙第二百號並に國民及東京每日兩社より寄贈の新聞紙等を見交しつゝ靜肅に退散したり。

因に當日總會終了後、總裁宮妃殿下は御令旨御禮の爲め御參內、岡部會長亦會を代表して參內されたるに、陛下には親しく會長を御引見あらせ給ひ、總會の模樣を種々御下問あらせられたれば、

會長は聖旨の忝なきに感泣して引き退られたりと。あなたふと、誰か又憂涙なる　御仁德に感泣し、且つ策勵せざるものあらんや。

總裁閑院宮妃殿下御染筆
愛國婦人會第九回總會記念品



兒童に對する尊敬

米國オベリン大學總長キング博士演說

『天國に於て大なるものは誰ぞや』との弟子の質問に對し、耶蘇は殊更に嬰兒を召びて弟子達の前に置き、嬰兒の如く謙遜なる者が天國に於て大なる者なりと論じ、最後に『爾曹この小子の一人をも愼みて輕視る勿れ』と敎へられた。(中略)

小子を輕視る勿れとは兒童の人格、性質、價値を輕視すべからずと云ふに歸着する。兒童の性質は高尙なる德を代表し聖人天使の德を代表して居る。此の德は勉めて之を尊重して保存し養成せねばならぬ。或人が兒童は生けるクエッションマークであると云つたが、事每に研究的にして素直に承け容れるものである。換言すれば總ての印象に對して感じ易い信用し易い特性を持つて居る。故に彼等の注意は常に次から次へと遷つて行く。之れ一の事に熱心でないと云ふにあらず、何れに對しても熱心なる結果である。ウオルヅウオルス曰はく『幼兒の一日は大人の廿日に價す』と、蓋し兒童に取りては古いものとてはなく萬事皆新奇である、彼等は此の新奇なる森羅萬象を驚きの眼を以て觀察し、十分智識を貯ふるのである、此特性は人間の向上と云ふことに大切なもので、彼等は時として答辯に苦むが如き馬鹿氣た質問をすることもあるが、然し此種の性質は何處までも尊重し同時にこれを學ぶ所がなければならぬ。

第二の特性は無邪氣に信用すると云ふことである、若し信用し得ざる兒童あらば夫は特別にませた兒童か又は狡兒の類で普通の兒童は皆無邪氣に人を信用するものである。此特性は長ずるに及んで謙遜の心となり、敎を承け愛を承け容るゝ態度となるのである。此の態度は須らく尊敬すべきもので亦吾人が兒童に學ぶべき所である。

兒童はその愛せられる事を自信するものである。此の自信は人間の向上に極めて重要のものである。或人は罪の中の罪は兒童の如き心を殺すことなりと云つたが、蓋し此の無邪氣なる自信の尊重すべきを云つたのである。

『爾曹この小子の一人をも愼みて輕視なかれ』とは兒童の特色を輕視すべからずとの意で、兒童の人格を尊敬すべしと云ふに歸着する。兒童は親の財產にあらず、其自由は飽まで之を尊重し、決して束縛すべからずとて、耶蘇は兒童の人格を蔑視し之が自由を束縛することに熱心反對せられたのである。

兒童は年長者殊に親に對しては多大の信用を置き、時としては其眞價以上に信ずるものである。故に又折々馬鹿げた問題を出して來ることがあるが、此等の問は寧ろ獎勵すべく、決して之を笑つて其信を破つてはいけぬ。親にして兒童の信を破ることは不注意の甚だしいもので實に寒心すべきことである。

兒童はそれ相應に苦勞心配を持つて居る。曾て余の弟が他の子供と遊んで居る時に、仲間に耳の大小の議論が出て、弟の耳は小さいと云つた。そこで弟は泣出して家に歸り、母に訴へた事がある。大人から見れば耳の大小は問題にならぬが、兒童の小さい胸には大問題である。係る場合には兒童の胸中を察して同情してやらねばならぬ。或る子供が指を傷けたとて親の所に泣て來た時に、親は何か忙しい事があつたと見え『やかましい彼方へ行け』と叱り飛ばした。かゝる事は兒童に取りては大打擊である。此場合『オ痛かつたらふ』と慰めた所で、時間の上に於ても手數の上に於ても格別の損はない筈である。如何に忙がしい時でも同情と云ふことを忘れてはならぬ。殊に兒童の口に出す所は一部分に過ぎずして、多くの苦痛や心配を胸に藏して居る。又子供相當の希望を持ち之れが爲め奮鬪もし、向上もしやうと努力して居るから、此等は察して同情してやらねばならぬ。『傷める葦を折ることなく煙れる麻を熄すことなし』との心もて兒童に對せねばならぬ。(下略)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

昔を忘れぬ心懸

後藤遞相夫人

○友達交際は年を取つてからの事

私共は十年以來殆ど旅生活で、恰度宿屋住居でもして居るやうな心持で生活して參りましたから、家庭向の御話など御參考になるやうな經驗も何も御座いません、それに西洋の方達のやうな生活方ですと、時間にもきまりがつき、餘裕も出來て參りませうが、私共は昔風の生活方をいたして居りますので、家の中の用事が誠に多く、お交際をいたさないばかりではなく、おち／＼書物をよむ暇も御座いません、お交際をいたしますと見聞も廣まつて誠に結構と存じますけれど、私のやうに身體も餘り丈夫ではなく、其上活きの御座いませんものでは、外に出ますとつひ家の中が疎かになりますから、それよりもまづ家の中の方をして居りますのが順序かと存じます、それに宅はもと醫者で御座いましたから、交際などの必要も御座いませんでした上、主人がお見舞の訪問などは此方から出ると、先方樣でも御挨拶に御出で下さらなければならないやうな事になり、結局相方の面倒になるから成るべくしない方がよいといふ流儀で御座いますので、私もお友達交際は年をとつてからの事として、當分は內の中に引込んで許り、もう御無沙汰のお見舞にさへろく／＼出懸けないので御座います。

○子供は三等列車に乗せる

質素といふ事は主人の流儀でもあり、私も日常實家の風でも御座いますから、主人や親の考を守つて、境遇の變つた時にも愚痴をこぼさないやうにと心懸けて居ります、人間は樂をいたします時はそれほど有りがたいとも嬉しいとも思はないものですけれども、苦しみに向ふ時は實に嫌なもので御座いますから、日頃不自由をした時の事を忘れないやうに心懸けて居りませんと、萬一逆境に沈みました時などに人を怨んだり、世を呪つたりするやうな見苦しいことになります、子供達にもこの事は餘程注意いたして、例へば旅に出かけます時など、父親と一緒なれば格別、私が連れて出ますとか、女中をつけて出します時には、いつも滊車は三等に乘ることにいたして居ります。

○車夫でも土方でも獨立獨行

子供達は何うかしてよい者に育てたいと存じますけれど、たゞ自治の出來るやうにしてやればよい、注文はしないやうにといふのが主人の主意で御座いますから、私も別に干渉はいたしません、實際學者になれの、國家を負ふて立てのと申しきけました處で、それ／＼備はつた器があるので御座いますから、仕方が御座いません。頭を活かす人間にならうとも、身體を動かす人にならうとも、それは名々の勝手で、親の方からは決して無理な注文をしないから、其代り車夫でも土方でも職業を何でも、たゞ他人に便らない獨立獨行の人にさへなつて呉れゝば宜しいと思つて居る丈けで御座います。

○親の學資は十三圓七十五錢

何でも主人が學問に出ました時分、よくお世話をして下さる御懇意な方から毎月二圓とか二圓五十錢づゝとか送つて頂いて學資にして居りましたさうですが、それが半年許りして塾の取締りか何かにされるまで丁度十三圓七十五錢で御座いましたさうです、それで主人は、いつも子供達に向ひまして、親の學資は十三圓七十五錢なんだから、その割にするとお前方は余程偉い人にならなければならないと申して居るので御座いますが、しかし何ういたしましても子供がだん／＼成長いたしましたに從つて、親が苦勞した時代を離れますから、昔の事は折にふれ事につけて申きけるやういたして居りますけれども、矢張り自然耳遠くなり、感じもうすくなつて參るので御座います。

○弊害なく苦みの經驗をさせたい

女の子の方はまた何んな處に嫁入をするやうになるかわかりませんから、僅かな收入でも生計のつくやうに、豫て躾けて置かなければならないと思ひますが、これも母親一人で煮炊き洗濯の事まで働いて居るやうな事ですと、申付けないでも自然いろ／＼な手傳をいたすやうになるので御座いますが、このやうに人を使つて居りますと、つひ氣がゆるみましていけません、何うかして夏休みのやうな時を利用して、御飯炊きから雜巾がけに至るまでいたさせて置き度いと思つて居ります、とにかく幾ら申きかせました處で、實際自分で苦しんで見なければわかるものでは御座いません、で、何か苦しみの經驗をさせて見たいと存じますけれど運惡く參りますと、これが却つて品性を損ふやうな事になりますからいかにして弊害なしに苦しみの經驗をさせられるかといふことは研究問題で御座います。

◎福岡支部第一回總會の状況

愛國婦人會評議員男爵夫人　關　郁子氏談

愛國婦人會福岡支部の第一回總會は既報の如く總裁宮妃殿下御臺臨の下に去月十八日午後三時から福岡市外千代の松原內の東公園で擧行されました當日參列者約一萬二千未曾有の盛會であつたさうですが會長代理として　總裁宮妃殿下に供奉しこの總會に臨まれました男爵夫人關郁子氏の御話をお聞申したから左に掲載致します、文責は申すまでもなく私に在るのであります（一記者）

不束を顧みず　妃殿下の御伴を致しましたゞけのことで、別に之れぞと申して御話致す事も御座いませんが、概略の狀況を述べますると、先づ午后二時三十分　妃殿下には中將宮殿下と御同伴で、評議員龜井眞洲子さん方や私等を隨へさせられ馬車で式場に御成り遊ばされ、支部長顧問の御先導で御休憩所に御入らせ遊ばしますると、支部長は支部職員名簿、會員表、保育事業調書等を捧呈されました。軈て同三時、兩殿下は『君が代』の奏樂の裡に同じく支部長の御先導で、供奉員一同を隨へ遊ばされ、式場に御台臨、先づ寺原支部長の開會の辭によつて式が開かれます。妃殿下には靜かに御起立遊ばされ、左の御諭旨を賜はりました。

御諭旨

愛國婦人會福岡支部は年を逐ひて發展し茲に第一回總會を開くに方り諸子と親しく相見るは最懌ぶ所なり從來當支部が克く本會の主旨を體し近くは明治三十七、八年役に際し鋭意後援の途を講じ其効果觀るべきものありしは深く嘉賞する所なり而も本會の事業たるや猶將來に於て畫策施設すべきもの尠しとせず諸子益戮力協心以て斯業の擴張を圖り邦家の爲に盡瘁せられむことを望む

明治四十三年四月十八日

次に支部長が奉答文を朗讀され、支部副長が會務の狀況を報告されまして、次で私が會長代理と致して祝辭を朗讀致しました。畢つて總裁妃殿下から有功章の御親授があり、又遺族廢兵總代に對し特別救護金の御下賜がありまして、式を終り、同三時四十分、再び『君が代』の奏樂の裡に兩殿下御退席、暫時御休息の后、折りから降り出したる春雨をも御厭ひなく宴會場に御臨み遊ばされました。終りに申述べたいのは、支部長顧問始め皆さんが、よく協同一致して御盡力遊ばし諸種の準備にも少しの手落などがなく、又參會の方々も大變な多人數であつたに關らず、誠に整肅でありました事で、これは自ら顧みて誠に耻しく存じました位で御座います。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

腸窒扶斯は斯の如くして傳染す

醫學博士 柴山五郎作氏談

▲飲料水から來た腸窒扶斯ならば急に多數の患者が出來、又急に減ずるけれども、本年のは昨年から段々と多くなつて來て居る、斯る流行の仕方を接觸傳染と云ふ。即ち患者の放出する病毒に接觸して發病するので、其病毒は飲食物に混じて口に入り、傳染する事となるのである。

▲無論重病患者を看護して感染するのは能く分つて居る。重い患者は大小便を無意識に規定なしに出す。從つて着物は常に病毒で汚れて居り、又患者は夫れに觸れた手で何でも掴むから、患者の周圍は病毒で一杯となる。故に注意を加へても傳染の場合が多い。赤十字社病院や傳染病研究所の如き設備ある立派な病院の看護婦ですら現に感染して居る者が在る況して素人の家で重患者ある場合に周圍の人に感染するのは是非もない事である。

▲病後の人も又怖るべきもので、一度腸窒扶斯に罹れば、健康者となつてからも尚其大小便の中には病毒がある。永いのは半年若くは一年、稀には三年間も殘る者があるが、平均四週間乃至一ケ月間は病毒を出すと見てよい。此の菌保有者が隨意に隨所に病毒を撒布し廻るので、例ば便所の引手の如きには、試驗的に研究すると多少大便が附着して居る。同時に大腸菌も認め得られる。今若し菌保有者が夫れを握れば窒扶斯菌も附着するわけだから、他の人が來て又それを握つて手をよくも洗はず、不圖舐めたり、或は物を掴んで喰べたりすると、直に感染するのである。

▲同樣の意味に於て便所の手拭からも感染する。

▲野菜は生の儘、鹽押しなどにして喰ふのは無論危險であるが、窒扶斯菌のある大小便の肥料を掛られても、多の場合煮沸さへすれば其の危險は無いものである。

▲又素人の氣付かないもので病毒を媒介するのは鼠である。鼠は好んで大便を喰ふ。警視廳で鼠の胃袋を檢査した所が、無論飯粒なども在るが、人間の咯啖や大便を澤山食つて居るのを認めた。すると鼠は便所にも出入し、又其足で臺所にも來る。臺所と糞壺との交通をなす者は鼠である。即ち鼠はペストのみならず窒扶斯虎烈剌、結核等をも媒介する、恐むべき代物である。

▲此外共同井戸の水及釣瓶繩、電車の釣皮等からも感染する。要するに質の分らない物を口に入れない事、自宅にて糞燒した物の外は喰はぬ事、料理屋などの便所の手拭に觸れぬ事、若し他人の家の便所へ入つたら手をよく洗ふ事などは各個人に注意しなければならぬ事である。

家庭叢談(三)

三千子

●事の大小に拘らず、目下の者の過失を見出して、其者であると確に分て居る時でも、冒頭から「お前此樣な事をして」と責め立てるのは、慎むべき事だと思ひます。何んな者でも過失をした時は、多少心の中に恥ぢて居るのですのに、突然頭ごなしに小言を云はれますと、人情として一つひ反抗心が起て先づ詫びるよりは辯疏の心が閃めきます。況して惡意あつての過失でなかつたら、尚更です。左樣な時には、何遍小言を云つたとて、効きませぬ。若し過を責め、罪を正さうと思ふたなら、好意から出た過失か、惡意有つての所爲かを見極めて、此方には寸分の鼻じろむ事の無い樣にして、偖て徐ろに詞少なく誡めなければ、効はないものであります。殊に無教育な召使輩に對しては、小言よりは能く道理を敎へて、心から悔悟させなければ、何もなりません。

●女が三人以上集まると、必と御主人の噂が出るものださうですが、如何に御主人の蔭口を仰つても、能く伺て居ますと、大概は、最後の一言で、今迄の惡口を打消して在らつしやる。其點は何處の奥樣も實に巧みなものださうです。例へば主人は朝寢坊で困ります。面會人が早朝から見えても、容易に起きませんので、本當にお氣の毒な事が度々有りますなど、散々惡口を云つて、最後に其代り本好で皆寢靜まつてから、深更迄熱心に讀書して居り升から、……と云ふ調子で。

●家に居て何も用の無い時は、戸棚でも簞笥でも、机の抽出でも、時間の都合を見て、何處なりと、片付け物をするがよいと、母に敎へられましたが、成程實際用の合間で何に取掛るにも、不都合の時間には、火鉢の抽出でも、本箱でも、棚でも、整理しますと、常に物の置場所が定まつて、仕舞忘れる事もなく、整然として、心地のよいものでございます。如何に一週に掃除整頓の場所を割當ましても不意の來客等の爲に障が出來ますから此頃に片付物は暇を利用して度々する事に決めました。

◎かまくら(承前)

訓子

(七)

階下から、ちーちやんを呼んで來ます。ちーちやんはおうちやんを連れて來ます。おうちやんは今年五歳、ちーちやんの直ぐの妹であります。

春坊はキシヤゴを出して、さあ皆ンなでやるンだと主人顏。

おうちやんはお仲間には餘ンまり幼いので、ちーちやんが獲つたのを持つて見て居るンだと體よく除けられる。

暫時が間おうちやんも是で承知を仕て居ましたが、自分一人がポカンとして居る嫌さに軈て仕てかへると言ひ出しました。

おうちやんに歸へられるとちーちやんも歸らればならぬと言ふ、春坊やゝ弱り氣味でしたが、遂々おうちやんも加へる事に妥協したま、おうちやんは得意に成つて幾度も〳〵無茶をやる。此度は春坊の方が我慢の緒を切らしました。

「母さんも入らなくちや僕嫌だい」

「さう、ぢや母さんも這入りますよ。そして好い事を敎へましよう、六ツはじきで、取れない者は手前出しとしますよ、好いんですか」

書物を仕て居た母さんも遂に引出されて、興味は愈に湧いて來ました九時に成つて殘り惜しさうにちーちやんはおうちやんを連れて歸りました。寢がけに春坊は。

「母さん鎌倉は面白いなア」

春坊は一人子で家では誰も遊び相手がありません

(八)

「大きな大佛さん………」

後ろの方へ廻らうと言ひましても、春坊は大佛さんの面前に立つて却々動きませぬ。

「母さん何故だらう」

「何がですか」

「だつて此大佛さんは人間の樣ぢやないぢやないの」

「さうよ佛樣ですもの」

「だつて昔は人間だつたんぢやないの」

色々說明しても何故が解けぬらしいので、楠正成だの、加藤淸正だの、中々確かな例を出します、

「………日本の神樣は大概昔は人間でしたけれど、之は日本の神樣ぢやありません、印度の佛樣なんですもの」

漸つと承知が行つたらしい、横へ廻つて四錢拂つて、大佛さんの腹中見物に這入りました。

「母さん、上をごらんなさい、窓が明いてゐる」

「ア、梯子もあります、上つて見ましやう」

「止さうよ、落つこちるといけないから」

春坊は大の臆病者であります、柄丈けは強いが眞が弱い、遂々上らずに出て了ひました。春坊は繪書を買つて大佛さんの後ろの平石の上でお爺さんに書いてゐます。

「オヂーサン、ケフハ、ダイブツサマニイキマシタ、ソシテ、ハラノナカニイリマシタ」

京ならば三月末頃の陽氣、蒔つとした日に何處となく電車があつて、風無に梅の花がホロ〳〵散る。境内を一周してぶら〳〵歸りかけますと、此所の門被處の鳥居に、日米國旗がひら〳〵立てられてゐます。芝草の上に遊んで居た子供に聞きますと、今に異人さんが二百計り來る筈と云ふ、春坊は一寸見物の件を提議しました。

一時間餘にして大勢の異人さんは車を連れて來ました。老若男女打交ぜて遠慮氣なしの賑やかなお客さん、境内は時ならぬお祭騷ぎであります。

のぼせ性の春坊「母さん、梅の花とつてあげやうか」

「あげてごらん」

春坊は忽ち二枝三枝手折つて、四十格好の異人さんに持つて行きました。歸つて來たとき何うでしたと訊きますと、

「嬉しがつて僕を叩いたよ、そしてお金をやらうと仕たよ、僕逃げて來た」

「それはよかつた」

「ねえ、母さん、日本男子だもの、とるもンか、ねえ母さん」

春坊は一人で意氣軒昂

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

此日の午後急に思ひ付いて、春坊と母さんは鎌倉から東京へ歸えました。(完)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雲の上

◎國母陛下の御還暦　來る二十八日の地久節は皇后陛下第六十一回の御誕辰にて即ち御還暦祝に相當するをもて同日は宮中に於て内外の臣僚を御召しの上盛んなる御祝宴を開き御酒饌を賜はる筈にて御歌所諸員及び女官一同は御祝歌を献詠する事となりたりといふ。なほ本年は英國皇帝陛下崩御に付き宮中喪さへ御仰せ出されし事なれば多分は御中止となるべしなど傳ふるものあれども宮中喪は二十七日限り除かるゝ筈にて其除喪の翌日なる二十八日の御祝賀には毫も御差支これ無き由。

◎青山御所の御養蠶　東宮妃殿下には先年皇后陛下より御勸めありて青山御所内苑の北に蠶室を設けさせられ春蠶の御飼育を初めさせたまひたるが、妃殿下にはいと興深き事に思召され長くも屢々親しく蠶室に成らせられ御手づから桑葉を御與へ遊ばさるゝと承る、蠶種は西ケ原蠶業講習所に御下命ありて日本種と歐洲種とを合せて御飼育あらせらるゝが、其御飼育高は年毎にまさせ給ひて本年の如きは御掃立の蟻量十二匁と承る程に、蠶兒は十二萬頭に及ぶべく蠶座は縱三尺横二尺五寸の七分籠百八十枚を御備へあらせらるゝとぞ桑葉は御蠶室裏手にあたる一反歩の桑畑より御收穫のほか西ケ原より御買ひ上げありて不足を補はれしが本年更に一反歩の桑畑を御内苑に作らせ給ひたれば明後年よりは御所内の桑葉のみにて十分御間に合ふべしとなり、さて繭はまづ西ケ原に御下げ相成り、糸につむぎて納め奉れるを、更に織手に御遣しあらせられ絹に仕上げて奉れば乃ち殿下御好みのまゝに種々御調製あらせたまふとなむ。

◎皇孫殿下西ケ原御成　さる九日皇孫迪宮殿下には御遠足かた〲閑院久邇の兩若宮殿下をはじめ御同學八十名と共に西ケ原蠶業講習所及び農事試驗場に成らせられたるが本多所長の御先導にて標本陳列室より各室を御巡覽あり、内最も皇孫殿下の興せられしは富士山の下に蠶兒の飼ひ居るを描ける一丈二尺の彩色繪にて所長が蠶一匹の吐き出す糸は二千尺故六匹分の糸は即ち一萬二千尺の富士山と同じでありますと御説明申上げしにいたく御感心遊ばされたりと。洩れ承る所によれば皇孫殿下には昨今御母君に隨はせられかの御所内の蠶室に成らせられて、蠶兒の發育する樣を御覽遊ばさるを此上なき悦びとしたまふよしなれば西ケ原御成の折の御感興の程はげにもといや深におはしましけむ。

◎英國皇帝陛下の崩御　我が同盟國大英國皇帝エドワード七世陛下には世界の女傑として知られたるヴイクトリア女皇陛下の皇子にまし〱其の御老熟なる外交的御手腕は近來特に世界の視線を惹き内外共に其の英姿を欽仰し奉らざるはなかりき、さるを去る八日突然として崩御の報は傳へられぬ、世界を擧りて御哀悼申上ぐるが中にも、ことに日英同盟以來殆と兄弟國の關係ある我邦民の痛悼の情は英國民のそれにも劣るまじきを覺ゆ。

隱れたる美譚

神奈川支部通信主任　深川滇雄報

▲一家を擧げて慈善事業に努む

古から善事門を出ずと申すなど、鹿爪らしく説き出でるまでもなく、往々玉のやうに美しい德行が埋れ隱れて、世上に表はれずに在ります、斯の如き御方の名を世間に發表し、その麗しい事柄を汎く世人に傳へますのは、本人には却つて迷惑に感じなさる事もあらうが、私等の大に嬉ばしと致すところであります

さて、こゝに横濱市花咲町七丁目八十二番地に日用雜貨店を開かる、石川竹太郎と申す方は、明治二年、横濱市の殆んど草分け時分、起中國滑川町の故郷から轉住されて、始めは小さな商賈を營まれましたが、資性誠に篤實で、又非常な勤勉家である上に、貞節なる妻ヤス子の内助を受けて、店の信用も日々に加はり資産も從つて出來て、現今では何不足なき立派な老紳士となられたのですが、尚一身の安逸を求むる事なく、益々勤儉己れを持し、且つ一家擧げて慈善事業に力を致すのを樂みとして居られます。

その一例を述べれば、去る明治四十年は竹太郎氏結婚の二十五年目に相當致したので、その祝ひをなす費用を省き、夫婦連名で金百圓を愛國婦人會神奈川支部に寄贈し、共に三等有功章を拜受されました。又開店三十週年の折には、之れも祝典の費用を節して、金二百圓を赤十字社に寄贈されました。子息とては娘一人でありますが、之れに婿養子を嫁られて娘は愛國婦人會の終身會員、婿は赤十字社の終身社員であります。此外暇ある毎に自ら奔走して赤十字や愛國婦人の主旨普及に努められ、その爲めに社員や會員と爲つた篤志家も數尠くありません。

又去る三十七八年戰役の當時、婿莊藏氏は抽籤の結果軍務に服して報國の義務を盡す事が出來なかつたので、宣戰の大詔を拜すると直に、金三百圓を陸軍恤兵部に寄附し、自ら慰められたのであります。其の他石川氏一家の善行美事は種々澤山に在りますが、これにて筆を措く事に致します。

▲記者申す　隱れたる美事　未だ世に現はれざる善行を御報導被下候事は本紙と共に記者の大に感謝致す處に御座候。

◉夏の獻立

▲白味噌汁　根芋立切、駒豆

▲煮もの　あなごの甘煮、蕗の付合

▲酢のもの　鯵の酢つくり、薄打胡瓜、かつら生姜（三倍酢）

▲燒もの　鮎鹽燒、おしそろ豆、生姜

◉白味噌を摺り、常の汁よりも濃く水にてとかし、鰹だしを入れて煮立て、根芋を長さ一寸位に立切り、駒豆を入れて煮るなり、白き汁の中より、靑き駒豆見えて美しきものなり。

◉あなごをさいて骨を取り水にてよく洗ひ、皮の方よりさつと白燒にして一寸位に切り味淋と砂糖にて下煮をなし醬油と花かつをを入れ汁の煮つまる程に煮るなり。

◉蕗はゆでゝ水に浸し皮をむき、鰹だしを別に拵へ置きたるを入れ、味淋砂糖醬油にて煮、先きのあなごと盛り合せにして出す。

◉鯵の酢つくりは鯵の頭を落し三枚におろし鹽をふりかけ小骨をぬき、鹽のきくやうに手にておしつけ、暫くして水にて洗ひ鉢の酢計り入れて此中に浸し置き、十分計りにして皮をむけばよくむけるなり、皮付の方より二分位の厚さの作り身にして皿に盛るなり。

◉小き胡瓜の元の方の皮をむき薄く切り鹽をふりかけ置き、暫時にして水にて洗ひざつとしぼりて鉢にうつし更に酢をかけてまたしぼり、鯵の傍へ盛る。

◉かつら生姜はまづ上皮をむき、更に立に薄く長くつくやうにむき、之れをくる〱と卷きて暫時鹽水に浸し置けばしなやかになる。之れを細くせんにうち再び水に浸せば糸の如くなる、指にてしぼり、これも鯵の傍へ盛り合せ、三杯酢をかけて出す。以下次號

東京市日本橋區通一丁目
合名會社　森村銀行
電話（特）本局六七三番
電話本局四九八番

定期預金　六ヶ月　年四分五厘
當座預金　百圓に付日歩　五厘
特別當座預金　同日歩　九厘

流行新形各種
洋傘　鞭杖
仙女香
坂本商店
東京市京橋區南傳馬町三丁目
電話本局一四四六
仙女香鞭杖ハ文政元年ニ開業ス

好評如湧新荷到着
◎一個五錢ゟ十五錢迄
◎一箱一圓十錢より二圓十錢迄
市内は一圓以上御注文次第配達可仕候

◎本品は越後名産本場木崎の梨果にて肉柔く心小さく水氣たつぷり甘味豐富なり又貯藏に堪ゆるの特長有之候
◎尚越後特産味噌漬類種々取揃へ置候
東京神田區今川小路一丁目五番地
九段俎橋東三軒目
越後木崎梨卸小賣專門　末廣商店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附録　愛國婦人會記事

本部記事

▲閑院宮御本邸に於ける特別徽章及有功章親授式

例年總會當日總裁宮妃殿下より御下賜あらせられる特別徽章及有功章の親授式は、總會の前日午後二時より麹町區永田町なる閑院宮御本邸に於て擧行せられたり。定刻總裁宮妃殿下には黑色の御洋裝にて別室に成らせられ、會長、副會長始め受章の功績者は室外に整列し、順次御前に至りて親しく各章を授けられ、終つて御庭園内にて茶菓を賜はり午后四時過退散せるが、當日の受章者左の如し。

▲特別徽章受領者

功績　會長　子爵夫人　岡部　坻子
同　副會長　伯爵夫人　阿部　篤子
同　理事　公爵夫人　一條　悅子
同　同　公爵夫人　島津田鶴子
同　同　公爵母堂　近衛　貞子
同　同　公爵母堂　毛利　安子
同　同　侯爵夫人　鍋島　榮子
同　同　男爵夫人　濱尾　作子
同　監事　男爵夫人　三井　苞子
同　評議員　子爵夫人　淸浦　錬子
同　同　男爵夫人　高木　富子
同　同　男爵夫人　關　郁子
同　同　原　禮子
同　同　渡邊　稻子
同　同　高木　鍈子
同　同　山脇　房子
同　同　柳谷　千代子
同　同　有島　幸子
同　東京支部京橋幹事部主任幹事　宇津木　廣子
同　同神田幹事部同　横幕　武眞子
同　同福岡支部長　寺原　松子
同　臺灣支部顧問　大島　久滿次

計貳拾貳名

▲一等有功章受領者

功績　評議員　伯爵夫人　東郷　鐵子
同　同　前子爵夫人　鍋島　昌子
同　同　男爵夫人　波多野　爲子
同　同　古市　幸子
同　同　鄕　濱子
同　三井　榮子
同　宮崎支部長　高岡　梅子
同　靜岡支部評議員　桑原　との子
同　東京支部小石川幹事部主任幹事　松崎　悅子
同　同本郷幹事部同　秋間　爲子
同　同本所幹事部同　栗塚　龍子
同　青森支部青森市幹事　樋口　たか子
同　元韓國委員本部評議員　香坂　禮子

計拾參名

▲二等有功章受領者

功績　理事　棚橋　絢子
同　子爵夫人　松平　八百子
同　子爵夫人　寺內　瀧子
同　前男爵夫人　松村　琴子
同　早川　里子
同　片山　龜子
同　弘田　增子
同　靜岡支部副長　小島　とき子
同　東京支部幹事部主任幹事　前子爵夫人　丹羽　花子
同　同赤阪幹事部同　新山　雅樂子
同　靜岡支部賀茂郡幹事部長　雀部　勇子
同　同　幹事顧部問　雀部　成宜
同　同靜岡市幹事部長　長島　うら子
同　同　幹事部顧問　長島　弘裕
同　長野支部高井郡幹事部長　鈴木　かつ子
同　本部第二部長　杉原　全德
同　長野支部南安曇郡幹事　福田　かち子
同　新潟支部南蒲原郡同　山石　イン子
同　同　廣川　ソノ子
金百五拾圓寄附　靜岡支部　深澤　とよ子
同　同　植松　みに子
同　同　長倉　さと子
同　秋田支部　武藤　ノブ子
功績　同雄勝郡幹事　西村　チカ子

計貳拾五名

▲三等有功章受領者

功績　評議員　男爵夫人　原口　せき子
同　武田　錦子
同　千葉支部東葛飾郡幹事部長　石川　逸子
同　同　幹事部顧問　石川　越夫
同　靜岡支部周知郡幹事部長　水野　たけ子
同　同　幹事部顧問　水野　富三郎
同　引佐郡幹事部長　藤田　うら子
同　同　幹事部顧問　藤田　信次郎
同　福井支部福井市幹事部長　山品　照子
同　石川支部金澤市幹事　青山　瀧子
同　同　山田　和歌子
同　同　土師　定子
同　福井支部福井市幹事　近藤　やよ子
同　同　仙石　入穗子
同　同　萩原　芳子
同　千葉支部事務員　富田　房吉
同　同　千代木　義雄
同　東葛飾郡幹事部事務員　木庄　政直
同　千葉郡同　阪上　鐵之
同　本部事務員　黑田　剛
同　同元庶務課長　大久保　高明
同　靜岡支部　深澤　七郎平
金五拾圓寄附　同　加地　まさゑ子
同　同　加藤　はる子
功績　秋田支部雄勝郡幹事　佐藤　ラク子
同　同　松高　ヨネ子

計貳拾六名

通計八十五名

●茶話會

例年總會當日に催される茶話會は都合に依り翌十日午前十時より午後四時迄の間に於て九段階行社樓上にて開催せられたり。此日岡部會長、阿部副會長、以下三輪田理事、其他評議員諸氏は朝來來賓の接待に努め、酒食の間に斡旋の勢を執られたるが、來會者一千十八名、非常の盛會なりき。

●慰勞會

五月十一日九段階行社樓上には慰勞會を開き總會參列の爲め來京中なる各支部主事に午餐を供し顧問及支部長の爲めに晩餐會を開催せられたり。

●青森大火見舞

本月五日、青森支部長に對し、會長より青森市大火に對する見舞狀を發送せらる

●遺族接待

去る五日より靖國神社祭典執行に就き鏡餅一重を神前に供へ、且つ六日、本部に於て本年合祀されたる軍人遺族の接待をなし、紀念品を贈り午前には伯爵夫人阿部副會長、男爵夫人關郁子氏、評議員龜井眞洲子氏等斡旋せられ、午後には男爵夫人有地捨子氏、評議員仁杉歌子氏、同渡邊源子氏等懇切に接待せられたり。

青森支部

愛國婦人會罹災者救恤

去る三日午後一時青森市の西端安方町より發火し時の狂風は西方より東南方に吹き荒み見る間あらせず火の手は寺町、浦町、濱町の三方に延燒し烈風の煽動に猛火熖々益々猖獗を極め暫時にして萬戸の街巷塵火に歸し火勢急激にして人畜逃るゝ處なく六日迄の調査にて死傷者の數實に壹百有餘燒失戸數七千五百拾八なり此時に於て愛國婦人會青森支部は武田支部長督勵の下に支部の類燒を其儘に措き先づ遺族廢兵罹災者の安否を尋ね特に貧困遺族廢兵罹災者にして散じて所在不明なるを搜索し不取敢武田支部長より見舞として白米貳斗宛贈與し尚引續き婦人職員支部係員をして訪問せしめ各罹災者に對し便宜を與へ且つ急速必要家具等迄購入の上惠與する等に奔走中なり

兵庫支部

▲奉送迎　日本赤十字社總裁閑院宮殿下並に同妃殿下四月二十一日午前六時二十二分神戸驛御着車神戸驛構內ミカドホテル樓上に於て御朝餐を召され同七時四十分神戸驛御發車御歸京あらせられたり御發着の際知事代理不破事務官田丸裁判所長其他各高等官及服部愛國婦人會兵庫支部長並に支部副長以下職員十數名又赤十字社兵庫支部職員等多數御送迎をなしたり

▲祭典　本月六日第十師團姬路城南練兵場に於て戰病死者招魂祭執行に付兵庫支部は供物料として金百圓を贈り服部支部長は幹事數名幷に主事を隨へ該祭典に參列されたり

▲重要事項協議　今般官公吏に於て私設團體に屬する會社等の現金を取扱ふこと能はざる事になりたるに付ては本月二日より縣廳內に於て管內各郡市長を招集せられたるを機とし本會に屬する會務等取扱の爲め各委員部に收入委員を設置し現金の取扱をなさしむる件及右に關聯したる重要事項を協議せり

廣島支部

四月二十日、潜水艇遭難者佐久間大尉以下十四氏の葬儀執行せられたるに就き呉市幹事部より榊を供し、澤原幹事部長以下會員約五十名會葬し、翌二十一日は澤原幹事部長幷に佐々木、山中兩幹事、青木委員は畔地事務員を隨へ遺族の居宅につき親しく吊慰の意を表せり。

函館支部

六月六日、函館招魂祭例祭に付當支部より紅白鏡餅一重を神前に供へ遺族參拜者の休憩所を同社附近に設け遺族一同を招待し茶菓を饗し折詰紅白餅一個宛を贈與せり尚音樂隊を聘し吹奏せしめ又蓄音器を演ずる等聊か興を添へ以て來會者を慰藉せしむ職員には多數來場斡旋の勞を執り待遇に盡力せり、接待者數凡そ百二十名なり。

長崎支部

●幹事部總會　四月十三日西彼杵郡瀨川村に於て第一回總會開催松永幹事部顧問村里支部事務員臨席せり來會者は本會員及有志等百餘名餘興には支部より携帶の蓄音機及同校女生の遊技等あり一同歡を盡したり

●駐韓軍隊慰問袋募集　九州沖繩各支部の協議に係る駐韓軍隊慰問袋募集に對し當支部の分は各郡市共頗る好況にして別表の通り集纏を了し三月二十五日發送したり（別表略す、但し慰問袋豫定數一千五百袋に對し千八百九十七袋を集め得たり）

島根支部

四月二日評議員會を開き丸山支部長以下會員及顧問參與主事出席會務に關する事項を議了し同日閉會せり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治四十二年度(歴年)愛國婦人會

事務成績報告書

本會の主旨たる遺族廢兵の救護は前年に引續き着實に行ひつゝあり豫て計畫中なりし其家族の幼兒は本年度に於て五十名を東京に集め救養しありと雖ども尚進んで來年度に於ては壹百名に增加せしめん計畫中なり今や四十二年度事務成績を各項に區別し單簡に其要を報告する事左の如し

○總會　本會第八回總會　四月五日東京市日比谷公園に於て開く當日

總裁殿下より左の御諭旨を賜ふ

本會は年を趁ふて發展し茲に第八回總會を開くに當り諸氏と相見るに至りしは最も欣ぶ所なり諸氏將來の事業に對し益々協心戮力以て遺族廢兵救護の實を完成せんことを望む

名譽會員東伏見宮妃殿下、伏見若宮妃殿下御臺臨あり參列者總數約壹萬五千人內東京支部に屬する遺族廢兵約壹千八百人にして靜肅に終了せり

○支部總會　本年度中總會を開催したる支部は左の如し

但各支部共總會に對し御諭旨を賜はりたり

宮城支部第一回總會　十月二十四日

總裁殿下御臺臨參列者約三千五百人內遺族廢兵約九百人

京都支部第八回總會　十一月七日

副會長伯爵夫人阿部篤子氏評議員前子爵夫人丹羽花子氏出張臨席し參列者約三千五百人

幹事部總會　京都支部船井郡幹事部外二十六幹事部

委員部總會　韓國城津委員部外二委員部

○總裁殿下より五月八日各支部顧問（各府縣知事）を御邸へ御招待あらせられて茶話會を開催せられ當日左の御諭旨を賜はりたり

本會の發展に關しては支部顧問諸氏の援助に依らざるはなし本日幸に諸氏と相見るは欣喜の至りなり諸氏が斯會の爲め盡瘁せられしを謝し並に聊か慰勞の意を表して將來尚一層盡力あらんことを望む

○明治三十七八年戰役の際盡力せし廉を以て十二月八日明治三十九年四月一日付左の通り御沙汰書を賜はりたり

愛國婦人會
北海道支部　札幌區幹事部
同　小樽區幹事部
同　函館幹事部
德島支部　名東郡幹事部

明治三十七八年戰役ノ際盡力セシニ付銀杯一箇ヲ賜フ

○本年中本部職員の移動左の如し

就職

會長　子爵夫人　岡部坻子
理事、副會長　伯爵夫人　阿部篤子
理事　男爵夫人　濱尾作子
同　棚橋絢子
同　三輪田眞佐子

退職

會長、理事、評議員公爵夫人岩倉久子
副會長　公爵夫人　一條悅子
理事　公爵夫人　德川泰子
同　公爵夫人　島津田鶴子
同　子爵夫人　谷玖滿子
評議員　男爵夫人　有馬幾子
同　藤井とく子
同　鄭濱子
同　堀ミツ子

○明治四十二年十二月末日現在會員七十八萬二千六百九十六人內二萬四千三百七十六人（特別千二百七十四人 通常二萬三千百二人）は本年の增加に係るものなり外に事故退會及除名したるもの一萬二千二百八十八人なり

○規則設定及改正　本年中評議員會の決議に依り本會規則類の設定及改正を爲したるもの左の如し

一臨時擴張部職務規定設定
一救養所會計規則設定
一同　給與規則設定
一本部規則改正
一愛國婦人發行所規則設定

○本年中有功章及特別謝狀贈與數左の如し

一特別徽章　五人
一一等有功章　四十五人
一二等有功章　百十七人
一三等有功章　三百六十四人
一特別謝狀　百八十五人

○本部職員支部出張　副會長阿部篤子評議員丹羽花子の兩氏は京都支部第八回總會に評議員有地拾子氏は會長代理として評議員古市幸子氏と共に宮城支部第一回總會へ出張せり

○援護事業　本會の目的たる軍人の遺族並廢兵を援護する事業は著々其步を進め本部は事業の一として遺族並廢兵の兒童に相當の教育を與ふる目的を以て各支部より志望者五十名を本部に收容し麹町區公立小學校に從學せしむ其成績は未だ報告するの時機に達せざるも大に見るべきものあるを認む又各支部に於ても援護の方法を講究し適當なる方法を設けて生計の途を立てしめんとす就中目下其方法を實施しつゝあるは東京、大阪、秋田、富山、山口、香川、福岡の數支部にして各其地方に適合する業を選び之に從事せしめ若くは現金を贈與して其生計を補助す其他の支部に在ては單に現金を贈與して其生計を助く而して之に要せし本支部の支出金額は左の如し

明治四十二年度に於ける本部支出の援護金は金九萬貳千五百四拾貳圓九拾九錢五厘にして之を大別すれば○個人現金贈與のもの金七萬八千參百五拾參圓○個人慰藉に屬するもの金四拾八圓九拾五錢○事業補助に屬するもの金五千八百貳拾八圓四拾壹錢五厘○教育に屬するもの金八千參百拾貳圓六拾參錢△

又各支部支出の援護金は金五萬參千五百五拾七圓四拾參錢四厘にして之を大別すれば○個人現金贈與のもの金四萬參千八百參拾六圓七拾壹錢六厘○事業補助に屬するもの金九千七百貳拾圓七拾壹錢八厘なり尚ほ臺灣支部は生蕃討伐に從事し戰死せし者の遺族に贈與する爲め金貳千百五拾四圓五拾貳錢を支出せり以上の金額を合計すれば金拾四萬八千貳百五拾四圓九拾四錢九厘にして明治三十四年本會創立以後此種に屬する總支出額は金六拾七萬參千百餘圓なり

○本年春季

韓國皇帝陛下韓國各地御巡幸の際陛下より本會會務擴張の思召を以て左の通御下賜ありたり

一金貳百圓　釜山委員部
一金貳百圓　馬山委員部
一金貳百圓　大邱委員部
一金貳百圓　平壤委員部
一金貳百圓　新義州委員部

○二月七日　本會主唱者故正七位奧村五百子氏三周忌法要を淺草本願寺に於て執行せり

○五月五日、六日の兩日靖國神社臨時大祭に付參拜遺族接待所を本會本部內に設け來集の遺族百九十四名へ茶菓を饗し紀念として扇子並に　總裁殿下御染筆複寫を贈與せり

○六月十九日

韓國皇后陛下より韓國水原委員部へ金五拾圓御下賜ありたり

○十二月二十五日　英京倫敦に於て明治四十三年四月開催の日英博覽會へ本會の諸統計を額面に仕立て裝飾を加へて出品せり

明治四十二年度會計

決算報告

○基本金之部

一金六拾參萬參千四百拾壹圓六拾四錢七厘
一金參百參拾圓九拾錢　四十一年度より越高
寄附金
一金貳拾四圓七拾錢　贊助金步合金（四十二年度會費步合金ノ內繰入）
一金拾萬圓
一金六千貳百拾圓貳拾六錢六厘（四十一年度收入超過額繰入）
計金七拾參萬九千九百七拾七圓五拾壹錢參厘　四十三年度へ越高

○固定資產之部

一金四萬貳千八百六拾八圓五拾六錢（四十二年度末所有家屋什器及貸與金現在高繰入）
計金四萬貳千八百六拾八圓五拾六錢　四十三年度へ越高

○用途指定寄附之部

一金貳圓　總會費へ寄附
一金四拾圓　救養所費へ寄附
計金四拾貳圓
內金貳圓　總會費へ支出
差引金四拾圓　四十三年度へ越高

○收支勘定之部

收入之部

一金貳拾壹萬四千五百拾五圓九拾壹錢六厘　四十一年度ヨリ越高
一金貳拾壹萬五拾圓七拾貳錢五厘　會費收納高
此內譯
金貳拾萬八千五百七拾四圓八拾六錢五厘　各支部納金別紙之通
金千四百貳拾五圓八拾六錢　海外委員部其他直納
金五拾圓　過年度收入
一金五萬九百九拾五圓七拾七錢　雜收入
此內譯
金貳萬五千五百拾九圓七拾四錢　預金利子
金貳萬五千參百六拾九圓參拾貳錢五厘　債券利子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

金八拾壹圓四拾錢五厘　徽章再渡代
金貳拾五圓參拾錢　雜入
合計金四拾七萬五千五百六拾貳圓四拾壹錢壹厘
外金貳千四百圓　貸費戻入
總計金四拾七萬七千九百六拾二圓四拾壹錢壹厘

支出之部

一金六千七百七拾九圓四拾七錢六厘　事務費
此內譯
金四千七百貳拾四圓八拾參錢　諸給
金七百七拾參圓四拾四錢　借地料
金百貳拾圓　廣告料
金九拾四圓五拾九錢　辨當料
金百貳拾壹圓貳拾六錢五厘　筆紙墨費
金參百參拾四圓五拾錢　郵便電信費
金八拾九圓六拾錢五厘　器具費
金百參拾五圓五拾八錢五厘　車代
金百七圓四拾八錢五厘　營繕費
金貳百七拾八圓拾七錢六厘　諸雜費
一金貳萬五千六百四拾九圓七拾七錢六厘　事業費
此內譯
金千五百六拾八圓四拾貳錢　印刷費
金五千貳百八拾六圓六拾九錢　徽章製作費
金壹萬參千百貳拾七圓五拾八錢貳厘　擴張諸費
金五千貳百參拾貳圓貳拾錢五厘　總會費
金四百七圓九拾貳錢九厘　運送費
金貳拾六圓九拾五錢　靖國神社大祭接待費
一金九萬貳千五百拾六圓四錢五厘　救護費
此內譯
金七萬五千五百九拾四圓　定期救護金
金千八百八圓　特別救護金
金千參百六拾五圓四拾壹錢五厘　臨時救護金
金八千參百拾貳圓六拾參錢　救養所費
金五千四百參拾六圓　事業補助金
一金四百貳拾八圓八拾參錢　救養所新設費
但地平均其他拂切ニ屬スル分
合計金拾貳萬五千參百七拾四圓拾貳錢七厘
外
金七千五百參拾九圓七拾四錢　四十一年ヨリ繰越　所有家屋
金壹萬六千百八拾五圓拾壹錢　本年度新築　同斷
金七百拾五圓九拾壹錢　四十一年度ヨリ繰越　什器
金貳千九百七拾七圓七拾錢　本年度買入　同斷
金壹萬貳千五百五拾圓　四十一年度ヨリ繰越　貸與金
金五千參百圓　本年東京及佐賀支部　同斷
小計金四萬五千貳百六拾八圓五拾六錢
但此金高ヨリ收入ノ部貸費戻入金貳千四百圓ヲ差引金四萬貳千八百六拾八圓五拾六錢ヲ固定資產ノ部ヘ繰入
金拾萬圓　四十二年度會費收入高ノ內基本金ヘ繰入
金六千貳百拾圓貳拾六錢六厘　四十一年度收入超過額基本金ヘ繰入
總計金貳拾七萬六千八百五拾貳圓九拾五錢參厘
差引金貳拾萬千百九圓四拾五錢八厘　四十三年度ヘ越高

明治四十二年度末
資產負債表

負債之部（貸方）

一金七拾參萬九千五百七拾壹圓五拾壹錢參厘　基本金
一金四萬貳千八百六拾八圓五拾六錢　固定資產
一金四拾圓　用途指定寄附金
一金貳拾萬千百九圓四拾五錢八厘　收支勘定本年度剩餘金
合計金九拾八萬參千九百九拾五圓五拾參錢壹厘

資產之部（借方）

一金四拾七萬六千五百八拾圓八拾錢　公債證書
但此額面五分利公債五拾七萬八千四百七拾五圓
一金拾圓　貯蓄債券
一金四拾壹萬參千圓　銀行定期預金
此內譯
金九萬八千圓　森村銀行
金六萬圓　十五銀行
金四萬五千圓　日本興業銀行
金八萬五千圓　第三銀行
金貳萬圓　第一銀行
金五萬七千圓　浪速銀行
金四萬八千圓　加島銀行
一金參萬參千九百六拾貳圓六拾四錢　銀行當座預金
此內譯
金千八百五拾八圓參拾錢　森村銀行
金貳千八百圓參拾參錢　十五銀行
金四千拾五圓八拾貳錢　日本興業銀行
金壹萬參千參百六拾七圓九拾八錢　第三銀行
金五千七百八拾圓貳拾六錢　第一銀行
金六千百參拾九圓九拾五錢　加島銀行
一金壹萬五千四百五拾圓　各支部貸與金
一金貳萬參千七百拾四圓九拾五錢　所有家屋
一金參千六百九拾參圓六拾壹錢　備附什器
一金壹萬七千五百五拾圓　四十三年度經費繰替金
一金貳拾參圓五拾參錢壹厘　現在金
合計金九拾八萬參千九百九拾五圓五拾參錢壹厘

右之通候也

明治四十三年四月一日

愛國婦人會
會長　子爵夫人　岡部坻子
副會長　伯爵夫人　阿部篤子
理事　連名

右監査を遂け相違なきことを證す

監事　伯爵夫人　伊藤美津子
同　男爵夫人　三井苞子

明治四十二年度會費收納內譯

支部名	會費歩合
臺灣	一七、五六九・七九〇円
北海道	二、七四二・一六五
東京	六、八四五・五三〇
京都	五、五〇四・五六〇
大阪	五、一〇三・〇七〇
神奈川	五、六九五・八〇〇
兵庫	一一、〇二八・六六〇
長崎	二、四九一・八八〇
新潟	四、五九三・九四〇
埼玉	二、四一五・七二〇
群馬	三、六六二・二六〇
千葉	五、二五四・八〇〇
茨城	二、四六三・〇八〇
栃木	二、七三二・五八〇
奈良	一、七七〇・八四〇
三重	四、六四三・三六〇
愛知	九、五三四・六四〇
靜岡	六、〇七一・二六〇
山梨	八一八・九六〇
滋賀	一、四五四・六八〇
岐阜	二、五一六・六八〇
長野	四、二九六・一四〇
宮城	四、八二〇・〇〇〇
福島	三、二五二・九四〇
巖手	一、六五三・一二〇
青森	三、〇〇九・〇一〇
山形	六、五四八・〇四〇
秋田	四、四四四・二六〇
福井	一、五九二・〇二〇
石川	五、八六〇・四八〇
富山	三、九四二・七二〇
鳥取	一、〇〇八・八八〇
島根	三、六六九・九六〇
岡山	四、五八二・五六〇
廣島	七、一八一・四七〇
山口	九、〇二五・三〇〇
和歌山	一、一九〇・七二〇
德島	一、七二九・五四〇
香川	四、四五七・三三〇
愛媛	六、八一一・八八〇
高知	一、二三〇・六八〇
福岡	八、九九八・三〇〇
大分	二、四一四・九二〇
佐賀	二、一七六・六六〇
熊本	五、二〇三・九四〇
宮崎	二、〇五〇・三三〇
鹿兒島	一、六六六・二三〇
沖繩	四一九・五二〇
函館	四二三・六六〇
計	二〇八、五七四・八六五

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

短歌　和歌　初夏

佐々木信綱先生選評

天　福岡縣下東郷村　小林秀野子
白鳥の群れて飛ぶ如あさあけの空を流るゝ初夏の雲
（評）清新の作、二句原作むれてとぶやうとあり、劣れり

地　大阪　彌生子
川添の若葉小柳七めぐりめぐりて來しや初夏の風
（評）七めぐりめぐりて來しやの想像奇抜なるをもて採る

人　三河田原町　山田經子
玉だれの小簾の耕房に風見えて白藤匂ふ初夏の家
（評）紅白の對わざとらしきは如何と思へどうつくしき歌

秀逸

梨の花散りてましろき杉桓に小川せゝらぐ初夏の家　福島　爲田よしの子
さかりなる藤の花房ゆるがして靜かににも吹く夏の朝風　滋賀　馬杉直子
さゆり咲くほとゝぎす鳴く我里を今訪ひ來ませ若葉初夏　岩代　小川しん子
青桐の淡きかけさす南まどうつり〳〵聞く金魚賣のこゑ　近江　石井田すゑ子
いざ歌へ聲うるはしき童べよ我今きかん初夏のうた　芝　小山季茂子
羽二重の衣ずれの音をさながらに若葉ふくなり初夏の風　岐阜　野村なか子

佳作

ほこりにし花のかたみかあらし山しげる若葉に夏風の吹く　長崎　相部よし子
夏衣夏へしあしたの涼風を若葉のかげにまづぞうれしき　岩代　西山さほ子
きのふまで花と見し岡に葉櫻の若葉をもるゝ夏の夜の月　青森　大橋かれ子
花は散り青葉はしげる梢よりすゞ風もるゝ夏となりにき　青森　大橋のぶ子
花の香もまだうせなくに行く春をなしむひまより夏は來にけり　函館　五十嵐やす子
今日よりは花の色さへ消えうせて諸みどりなる四方の山の端　青森　三上八重子
汐あみにつりに涼みにつどひ來て磯の松原賑ひにけり　長野　塚田忠子
相模川流れにあそぶ水鳥もこゝろにとまる夏は來にけり　神奈川　足立麻とり子
花に醉ひし春もいつしか呉竹の風なつかしき夏は來にけり　芝　土師利根子
去年の夏ともに戯れし楠のかげに時鳥きく夏は來にけり　京都　田中久嘉子
やう〳〵にかすみうすらぎ野も山も見渡すかぎり若芽萌えけり　岐阜　西脇綾子
櫻色そでぬき更へて卯の花の白重ねする夏は來にけり　丹後　玉枝子
夏山やきのふの花の雲消えて小川に釣れる人も見えけり　栃木　檜山いつ子
初夏や橋の袂に佇めば川風輕く裾を吹くなり　麹町　田村かれ子
書に倦みて初夏の窓やうたゝ寐の夢の行衞はふるさとの君　福岡　瀧口しげる子
行く春の哀れはきえて大空も木々も綠に夏は來にけり　横濱　鈴木まつ子
雨あがり青葉若葉に露やどり垣根床しきなでしこの花　神戸　服部重子
嵐山ふもとの流れ夏の來て若葉の露に瀬面ましつゝ　備後　世應龜子
木曾川の流れに添える若葉風大かたしめし友の家かな　岐阜　野村なか子
花見せし山はみどりに小山田は青色づきて夏は來にけり　岡山　森島古野子
遠近の若葉かくれてかけ見えてさつきの鯉の勇ましけなる　赤坂　清水まつ子
朝夕にめでし楠の花散りてわかば色めく夏は來にけり　青森　大橋八佐子
山はたの麥生のほ立ち色づきて青葉すゞしき夏は來にけり　岡山　西村長子
山里はゆきの卯の花咲きにけり都は氷賣りはしるらむ　兵庫　水野靜子
けふよりは衣の移り香うとくなりて若葉すゞしき夏の初風　三重　莊司種子

俳句

題（茶摘　日永）

內藤鳴雪先生選

天　四ッ谷箪笥町　堀尾のぶを子
日永杖曳いて大和に遊びけり

地　美作苫田郡　西村長子
うぐひすの聲をよそなる茶摘哉

人　神田佐久間町　鶴岡とく子
椽側に姉と妹の日永哉

佳作

嵯峨の山越へて北野の日永かな　神田　鶴岡とく子
京に來てそゞろ歩きの日永かな　同　同人
牛のたり〳〵と永き日なりけり　同　同人
朝露に袖の雫や茶を摘む　三重　莊司種子
茶摘歌きくたのもしき旅路かな　神奈川　森田田鶴子
茶摘籠瀧のしぶきのかゝりけり　備后　世應龜子
永き日の暮れて小里の煙哉　同　同人
茶摘女や喜撰が庵を遠く見て　奈良　辻壽子
誰れやらの聲なつかしや茶摘唄　横濱　らく子
子供等の捨てしまひし茶つみ哉　日本橋　大橋まさ子
此村は女ばかりの茶摘哉　同　秋花菊子
籠おろす畑の小路や茶摘人　同　關口きり枝子
眼鏡して茶摘める母の健かに　岡山　堀江幸子
霞晴れて朝日浴ひつゝ茶摘哉　同　森野古野子
桃ちりて宇治に茶摘の聲すなり　京都　小草子
日永うて思ひ邪まなかりけり　安藝　石田とわ子
石山の石の數よむ日永哉　近江　中野まさ子
そみて舟待浦の日永哉　長野　塚田忠子
よく眠る子供に永き日なりけり　函館　尾田愛子
先生の講義聞き居る日永かな　芝　小山季茂子
秋蠶蟻にくれたる日永かな　大和　山査子
永き日や摘みし蓬の手に余る　東京　堀尾のぶを子
山どりの尾の永き日や櫻散る　福岡　瀧口シゲル子

◎藝州山口西里翁等追慕詩歌募集　來六月藝州廣島元上田家の儒臣山口西里、西園、鳴鶴、西郭、西里（文遺）等諸翁の追慕祭擧行に付舊く縁故ある人々の詩文和歌俳句を募る由
題　師風、懷故人、山、其他題外随意
〆切　五月末日
廣島市大手町八丁目　水谷貫方
同市鷹匠町　賀屋鐵方

◉若葉會詠草

○　玉だれ

花さかり訪ふ人もなき山寺の、ふもとの里は鐘に暮れゆく
桐花あとなく散りし丘の上を　わがもの顔の若楓かな、
夢うつゝ君がおもかげほのみえて　ありし世しのぶ夜半の淋しさ

○　かげろふ

月影もかすみて見ゆるおばしまに　散りしく花の美しき宵
月もよし花も艶なる夜の樓と　語らひつゝもさまよへる人

○　蘋の花

何時の間に氷解けゝむ諏訪の湖　青空のかけ蘋の花のかげ
母ゆきて今は形身の冬衣　しつけのまゝに七年を經ぬ、
かしこげに世の人まれてなか〳〵に　あはれ知りては安からぬ胸
五月雨の晴れ間を宿の端近く　蓄盤出しぬ山の湯の客
紅の花たゞ一つ夏といふ　色に咲きける御寺の庭

○　わかば

かたるべき人しなければ此思ひ　日記にしなして安きを覺ゆ
戀を捨て苦痛をさけて安き世の　とはの眠りにつかむとぞ思ふ
たのしかりし今日のつどひをいつの日か　昔とかたる時を想ひぬ

▼愛國文苑▲

●和歌　新樹露（六月五日締切）　水邊夏草（六月廿日締切）　坂正臣先生選
●和歌　雨後納涼（七月五日締切）　夕立（七月廿日締切）　佐々木信綱先生選
●俳句　かやりび（六月五日締切）　夏野（六月廿日締切）　內藤鳴雪先生選

▲和歌の選は新派歌壇の明星佐々木先生の外に舊派の泰斗宮內省御歌所主事坂正臣先生に御依頼し隔月に選評して頂く事と致しました、宜く前記課題に御注意あつて締切に遅れないやう御投稿被下い

愛國婦人クラブ（投書随意）

▲妾は地方の女學校を卒業し和歌に趣味を有するものでありますが題を頂いて直して下さる方はありませんか、（小石川滋子）◉答本紙の懸賞和歌に應募なすつては如何です、題も出して在ります選者は筆を入れて被下いますので、▲京都風光社の所在地又は何人も出會出來るか御知らせ被下度候（なか子）◉答聞き合せまして次號で御返事致します▲家庭叢談毎號面白く倚く拜見致します、缺かさず御掲載を願ひます（信州秀子）◉答ハイ〳〵承知致しました、▲原胤昭先生の「母と子」の發行所と定價をお知らせ被下いませ（佐賀濱子）◉答發行所は博文館、定價は上下二冊で一圓です▲御紙を週刊にして頂く事は出來ませんか（青森ふで子）◉答御同情ある御希望ですが記者からは何とも御返事申されません、先づ〳〵現今のところで倚一層の御同情を願ひます

▲四月二十一日（木）晴　東宮殿下名古屋御着◉地方官會議開かる
▲同二十二日（金）晴　閑院三姫宮殿下跡見女學校生徒と江の島御成
▲同二十三日（土）晴　三皇孫殿下新宿御苑御成◉閑院宮同妃殿下福岡より御歸京
▲同二十日（日）晴　皇后陛下東宮殿下御還啓◉三皇孫殿下荒川筋櫻花御覽◉久邇宮殿下釋奠式御成（湯島聖堂）◉全國育人大會（國技館）
▲同二十五日（月）晴　來る二十七日觀櫻御宴御催確定
▲同二十六日（火）曇　兩陛下より輪島火災御救恤御下賜◉伏見若宮殿下關首府御安着
▲同二十七日（水）晴　觀櫻御宴
▲同二十八日（木）雨　閑院宮殿下千葉縣下御出張◉北白川宮永久王殿下御參內
▲同二十九日（金）晴　第一皇孫迪宮殿下第十回御誕辰◉富美宮內親王殿下と朝香宮御成婚御敕許◉靖國神社祭典に付き祭粢料金五百圓御下賜◉大隈伯叙勳
▲三十日（土）晴　清國駐屯軍御慰問の思召を以て陛下より侍從武官御差遣◉三皇孫御品陳列場御成閑院宮同妃殿下京都御成◉北白川宮大妃殿下同しく葉山御用邸へ
▲五月一日（日）晴　伏見若宮白耳義國ブラッセル御安着◉奈良大佛修繕費中へ金一萬圓御下賜
▲同二日（月）晴　白耳義特派使節叙勳◉赤十字社及愛國婦人支部總會（京都）◉遞信省新築移轉
▲同三日（火）晴　閑院宮同妃殿下御歸京◉青森市大火
▲同四日（水）晴　富美宮內親王殿下御暇乞御參內◉板垣伯銅像建設費中二萬圓御下賜
▲同五日（木）晴　端午の節句◉宮中月並御歌會定日◉四分利公債外債成立◉靖國神社祭典初日
▲同六日（金）曇　富美宮內親王殿下御婚儀を賢所大前に於て擧げさせらる
▲同七日（土）曇　英皇帝陛下昨六日御崩御の報來る◉宮中喪仰出さる
正誤（前號本欄中三月とあるは全部四月の誤植に付き訂正す）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講談

赤穗義士ノ内 **勝田新左衞門**

大島光利口演

第二席の三

重『アレを賣拂つても三十や五十兩の金は出來やう其に遠方なら兎に角、隅から隅まで歩行ても四里四方の江戸じや、本所邊に彷徨て下谷の徒士町我等が家へ顔出しせぬは、ウン分解た、拙者の娘の花に秋風が立たナ、元來合せものは離れ物、無理とは云はぬから男らしくスッカリと離縁せよ、然し腹は假物孫の新太郎の事を其方は思はぬか、拙者が嚴格樣る故、我に對つては云はぬけれども娘と孫の談話を聞ば近所の朋友は阿父さんが凧を揚てくれるが家の阿父さんは何所へ行つたのかと頑是ない新太郎が云ふと、娘は又拙者に聞えがしに庭の植木へ來て止る烏や雀を見ても親子夫婦が揃つて居るに、阿父樣は何うしたか二年越の音信不通、其裡には便りがあらうと新太郎の顔を見ながら話を爲て居る、夫程貴樣は不實とも思はなかつた何うも合點がゆかぬ、婿殿離縁せヨ、世間を憚かる密やかなる話聲も腹立まぎれと自然と聲も高く、勝田はおず〳〵身を跪いて、他に聞えてはなるまじと前後へ氣を配る容子に重兵衞は、涙を拂ひ、抑此邸は誰方なるかと見上る前の窓長家、昨十四年より引移つたる吉良上野之介、家督相續なされたる左兵衞介の住邸、ウン僣は昨年殿樣御切腹御家は潰れて家中の者はチリ〳〵バラバラ恨み重なる吉良の邸の窓下に佇ずんで大根を商ふは殿の恨みを晴すが爲、命を捨ての忠義。一擧かと思へば滿面に笑を含みし重兵衞は、婿の健氣を喜ぶ涙、二年越の不實なりしと恨みの涙は、左右から喜憂交々ふりおとす意味深長の落涙なれば、涙の方目も至つて重く、一粒二匁以上もありつらん、勝田の前に腰を屈め、重『新左衞門老の一徹腹立まぎれに其方に對ひ娘の離縁をせよと云ふたが、彼はホンノ當坐の戲れじやぞ。偖御心勞の程察し申す、天晴れ〳〵、我は本年五十七才、故人の讀だ歌の通り、世を經るも軒端の竹のはづかしや、何一節の事のなき身は、天下太平の武士の悲さ、何一ッの手柄もない、三十未滿の其方が忠義の心底確に見えた、三國一の婿取る娘の花は幸福じや、孫や花の喜ぶ顔が最早目先にチラ〳〵見える例へ襤褸は被て居やうと

も、心に被たるは綾羅錦繡さや縮緬に優つて居るサア一緒に參らう新『イヤ御言葉では御坐るがコ、ハ出先、昨夜もつくづく思ひましたが例へ何やうの仔細あらうとも餘に御無沙汰勝今日は立歸り、明日は照降にかゝはらず、久しぶりで御尋ね申す、妻子が永く御世話になつたる御禮も申さうと存じ居ります、何卒今日は之にて御免、明日ゆる〳〵御目にかゝる重『イヤ然でもあらうが堪て久しき對面じや、とは云へ下谷までは遙かの道程、此雪で荷が重ければ拙者が擔いで行つて遣はさう新『何う致しまして、左樣な譯では御坐いませんと云ふ裡さへも氣遣はしく、吉良の邸に知られてはならじと天秤を引擔ぎ、今日は此儘御免と云ひ捨て雪を蹴立て武堯は一ッ目の橋を打渡り深川安宅の浪宅へ立歸りましたが。後姿を打眺めたる重兵衞は重荷を下したやうにがつかりとして重『イヤ〳〵今の容子を見ては並大體の武士ではない、一疋の駒が狂へば千疋の駒が狂ふと云ふ、此の御邸に御在になる吉良上野之介殿さへなくば大勢の人も斯やうな難儀はいたさぬものを吉良の邸を白眼付、婿の後姿を見送り零時の間立往生、氣脱同樣佇て見て居ります夫とは知らぬ下郎久助、餘り主人が遲いから見て來いと云ふ先の頼み、とつかは急ぐ松坂町の兩側の商人家を何家か寄つては居やせぬか、覗き覗き戻つて來ると吉良の邸前に傘を擔いで佇つて居る主人、久『何だ未だ茲に居るぞ立往生をして居が何うしたんだらう、定めし仔細ぞあらんと拔足して來るとは知らぬ重兵衞思はず知らず獨言重『嗚呼年は壯いが新左衞門は立派な武士じや天晴天晴、下郎は傍から顔を出して久『旦那樣天晴〳〵甘茶で天晴じや重『何だ久助來たか久『來ねへで何う爲べエ、お前樣先刻から茲に佇て居るだに、皆さんが御待兼だアが、早く御出になるが宜かんべエ重『ウン然であつたか、サア徐々出かけやうぞ、云ひながら兩國橋の方へ歩行出す、袂を押へて久『若し旦那樣、其方へ行と兩國橋へ戻つてしまうと云へば重兵衞ニッコリ打笑重『兩國橋を渡らねば下谷には歸れぬではないか久『下谷の御邸は判つて居るけれども三ッ目の茶の湯の會は何う爲るのだ、雖も重兵衞は婿に逢つた嬉さ茶の湯の會に行けばこそ重『獸れ下郎、茶の湯は天下泰平の樂みだ、風流亡國と云つてナ、餘り風流ばかり行と國が亡びるぞ、馬鹿奴郎。

醫院案內

福田病院
京橋采女町歌舞伎座前横通
電話新橋（一三二四二）（一四八八一）
院長 醫學士 福田謙之
次長 醫學士 加藤良逸
小兒病一般
並 小兒皮膚科 小兒耳科
隔離室の設備あり

婦人科產科 榊病院
院長 醫學博士 榊 順次郎 婦人科產科 每日午前診察
副 醫學士 久保德太郎 婦人科的外科 外國留學中
副 醫學士 田代 謹二 婦人生殖器病 泌尿器病及內科
一般火木土午後診察
●施診火木土午後一時至二時
麴町區三番町三三（電話番町三九五）

生殖器科
梅どく・生殖器病・外科 あざ ほ黑
中央醫院
東京淺草瓦町廿八 瓦町電車停留場横

生殖器病專門中央醫院處方
梅毒 横根 下疳 りん病・ぢ 疾症 皮 膚病 わきが
生殖器病 神經衰弱 記憶力減衰 陰萎夢精遺 精早漏陰莖 發育不充分
病狀を記し郵劵六錢送れば其病を速治する特効新藥說明書送る
中央藥院
東京淺草瓦町廿八 瓦町電車停留場横

產科婦人科專門
診察每日午前 入院隨時
岩田病院
淺草區左衞門河岸 電話下谷一〇二八

腦神經精神病科
加命堂腦病院
東京龜戸町電話浪花二五五二

チエリーブロスソム白粉
夫へ極く內證で
買ふて
終生忘る能わざる
ものは
チエリーブロスソム
ゴスネル會社
倫敦 巴里

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ARUNDEL HOTEL,
Victoria Embankment, London, W. C.

當館は地下電車乘場に接近し日英博覧會場へ數分の間に達する事を得、第一流の劇場に近く、寢室壹百、圖書室、喫烟室、球突場等完備す眺望は雅なり。
英國倫敦 アランデル ホテル

CHARING CROSS HOTEL,
Strand, London,
電信宛名 "Banqueting, London."

本館は倫敦第一流の旅館にして市の中央に在り鐵道及電車に近く遊覧見物に至便寢室三百五十電話各室に通す、圖書室喫烟室遊戯室海水浴室等完備す。
英國倫敦 チヤリーング、クロス、ホテル

QUEEN'S HOTEL,
Upper Norwood, London, S. E.

本館は日英大博覧會場に接近せる大旅館にして見物に至便なり宿泊料低廉、食事中奏樂す各室清潔にして美觀を極む
英國倫敦 アツパー ノルウート街、クヰンス ホテル

MANCHESTER HOTEL,
Aldersgate St., London, E. C.

弊館オルダースゲート停車場に接近し且つ日英博覧會場へ直行し得らる日本紳士淑女に對し特に割引し一日分約三圓と五圓の二種とす食料附
英國倫敦 マンチエスター ホテル

THACKERAY HOTEL,
Great Russell St., London.
サツカーレー ホテル

KINGSLEY HOTEL,
Hart Street, London.
キングスリー ホテル

弊店は禁酒旅館にして中央停車場へ三分間にて達する事を得宿泊料は至極御手輕に取扱可申候

SALISBURY HOTEL,
Salisbury Square, Fleet St., London.
電信宛名 "Salisbury Hotel, London."

快適なる談話室、應接室、圖書室其他旅客を慰藉する設備は全し
一日の宿泊料（食料其他一切）約五圓以上
當旅館より五分間にして劇場其他著名なる場所に達することを得
英國倫敦サリスベリー、スコーア、フリート街
サリスブリーホテル
電話三八一九番（セントラル）
電話七三一番（シチー）

內外廣告取扱部
廣告用雜貨輸出入部
洋書輸入販賣部
和英飜譯印刷部
意匠考案部

合名會社 東洋廣告取次會社
本店 神戸市元居留地仲町三十八番館
出張店 東京市麹町區八重洲町一丁目一番地
支店 英國倫敦クレヴンハウス五十七番館
業務擔當社員 ドーグラス、エム、ヤング

宮內省御用達
大黒天印
甲斐產葡萄酒
純粹生葡萄酒にして藥用に適し其品質の佳良なるは普く天下の賞牘を博する處なり釀造經過年限に依り左の三種とす
●金線十年　●銀線五年　●赤線三年

宮崎葡萄液
◉長井、下山兩博士の指導の下に創製せる本液は滋養に富める葡萄の果汁なれば他の飲料に比類なき卓越せる特色を有し毫もアルコール分を含まず芳香美味にして衛生に適し日常之を飲用せば消化力を助け筋肉を肥し滋養補血に偉大の効あり
發賣元 東京日本橋區通旅籠町 甲斐產商店
振替貯金口座一九三七番　電話浪花八七〇番

タカヂアスターゼ
●不消化の徵候
醫學博士谷口長雄氏曰く『澱粉不消化に因する疾病の重なる徵候は胃の膨滿、疼痛、溜飲、腸内瓦斯蓄積、便秘若くは下痢等にして甚しく營養障害を來す是等の疾病に對しタカヂアスターゼの頗る有効なるを信ず』と
●高峰博士發見の製法に從ふタカヂアスターゼは毎瓶强度一定效力不變なり
是れ普通製法の幾多摸造品と異る特長なり眞正なるタカヂアスターゼを得んには必ず高峰博士のタカヂアスターゼと指定せられよ粉末錠劑の二種あり各地に於ける信用ある藥舖にて取次販賣す。
●醫學大家の報告を收載せる『タカヂアスターゼ說明書』あり 發賣元東京日本橋區室町三丁目三共合資會社へ申込まるれば無代郵送す

帝國貯蓄銀行
銀座一丁目河岸通（電話新橋八二六 二〇八）
飯倉支店 飯倉三丁目
赤坂支店 赤坂表一丁目
四谷支店 四谷大通り
本郷支店 本郷一丁目角
神樂坂支店 牛込神樂坂上
吾妻橋支店 淺草雷門前
須田町支店 神田須田町
米澤町支店 兩國米澤町
品川支店 南品川一丁目
横濱支店 横濱吉田町
代理店 日本橋坂本町田中銀行
◉一錢以上何程にても御預り最も御便利に取扱ふ●毎月五日迄の御預金には全月分の利子を付すべし

大日本
發賣元祖
明治四拾三年新品
よのみけ　八
東京市京橋區銀座三丁目
松澤商店

東京神田區美土代町三丁目十七番地
內科一般　午前宅診 午後往診　板垣亨
電話本局貳千九百七十番

夏
[illegible]
東京日本橋區堺町通ふきや町　電話浪花　千二百七十番

◉院長ドクトル木村順吉
京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇）
婦人科產科木村病院

岩佐病院
日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地（電話浪花六七九番）
診察時間 自午前九時 至正十二時
內科婦人科 院主 岩佐純
內科 院長ドクトル 岩佐新
外科 醫學士 山村正雄
產科婦人科 醫學士 西村漸
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

婦人世界春季增刊
ことぶき草
五月十五日　增刊第五卷第六號　定價一冊拾五錢　郵稅一錢五厘　半年稅共一圓九錢　一年二圓五錢

◎私が最も感心した長生法……村井弦齋
◎乳癌を手術して全快した實驗……棚橋絢子
◎發育覺束なき若樣を育てた實驗……鳥山立子
◎櫛一枚から奇病に罹りし實驗……尾崎信子
◎小兒を診察した時の所感……加藤博士
◎熱帶地方旅行中病氣に罹りし實驗……福島中將
◎七十四歳で和服を着て渡米實驗……矢島楫子
◎結婚後十四年目に出產……生田郁子
◎養生惡きため流產した實驗……佐藤學士
◎必ず死ぬといはれた母の全快……記者
◎外國にて風土病に罹りし實驗……中畑良子
◎脚氣には如斯大妙藥あり……村井弦齋
◎本誌獨得の歷史講談『妙海尼』……風谷

發行所 東京京橋區南紺屋町十二番地 實業之日本社 振替口座三二六番 賣捌 全國書店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

消化と毒けし
ゼム

▼全國各薬店にあり

皆様（みなさま）

今日（けふ）もまた丈夫（ぢやうぶ）で元氣（げんき）で心（しん）から愉快（ゆくわい）に「暮（くら）す様（やう）」「ゼム」を今（いま）すぐ召上（めしあが）れ

杉本三丘園茶舗

本店　京都綾小路西洞院東　振替口座大阪九二八番
支店　大阪高麗橋四丁目　振替口座大阪二一〇〇番

薄茶　十匁ニ付

大園	上別儀	別儀	廣葉
八拾錢	五拾錢	三拾錢	拾錢

玉露　二百目ニ付

綾洞	雲脚	龍鳳	碧松雲	小里	雙之鶴	眠の鶴	梅尾	綾之玉	岡露	衣の笠	室の花	雲錦	玉露
拾圓	七圓五拾錢	五圓	參圓五拾錢	參圓	貳圓五拾錢	貳圓廿錢	貳圓	壹圓八拾錢	壹圓六拾錢	壹圓五拾錢	壹圓四拾錢	壹圓廿錢	壹圓

煎茶　二百目ニ付

三丘	無雙	雙岡	岡の花	正喜撰	喜撰	朝日	常盤
壹圓五拾錢	壹圓廿錢	壹圓	九拾錢	八拾錢	七拾錢	六拾錢	五拾錢

折物　二百目ニ付

白鷹	友白髮	白雲	白折	明石	舞鶴	鷹か音	上玉眞	玉眞
壹圓八拾錢	壹圓五拾錢	壹圓廿錢	壹圓	八拾錢	七拾錢	六拾錢	壹圓廿錢	壹圓

愛國婦人廣告取扱
神田三河町一ノ一九　博報社
京橋區宗十郎町一七　正路喜社
愛國婦人海外廣告一手取扱
日本橋區蠣殼町三ノ一一　大興社
京橋區南紺屋町一一　星社
神戸市元仲町居留地三八　東洋廣告取次會社
神田須田町廿七　金蘭社
京橋區　廣告社
下谷區御徒町一ノ三九　三松堂

金婚正宗の名譽

◉御進物用には至極好適

畏も東宮殿下御買上の榮を荷へり

優等清酒金婚正宗の品質純良なるは既に定評あり而も價額尤も低廉也

◉御常飲用には樽詰もあり

宴會用小罎詰あり
瓶詰箱入
各洋酒問屋にあり

發賣元　神田美土代町二丁目角
豐島屋本店
電話本局　一七五四番　三八八一番

模範的生命保險會社

東京市日本橋區通三丁目
第一生命保險相互會社
電話　本局　一三七三　同　一七三七

生命保險を附せざる良人は愛情なき人也

小兒病診療
往診午後　宅診午前
淺草區新福井町二（瓦町電車停留場際）
醫學士　内田愼太郎
（電話下谷七一八）

◎産科婦人科
芝明船町十九虎門外
電話新橋三三二四番
櫻井克巳

よいゆかた
いせざきめいせん
かすりるゐ

人形町通の
赤のれん
おはなや本店
電浪四三四五

和洋裁縫各科募集

本校教員養成科は文部省裁縫科檢定試驗を受る事を得
本科は毎四月許入學尚各科毎月募集

東京麴町區飯田町九段中坂上（電話番町千九百七番）

文部大臣認定　私立
和洋裁縫女學校

特許 新案 第壹貳貳九八號
槻木地丸八日巻外天府掛時計
文字盤直徑九吋二分ノ一
壹個賣代金六圓也

特長
本機ハ從來ノ掛時計ト異リ振子ナキ爲メ如何ニ**轉倒逆運**ナスト雖モ支障ナク故ニ**船舶工場**其他**震動**ナス場所ニ使用シテ最完全ナリ亦體裁優美ナル故**店頭、座敷、**用トシテ最モ適當品ナリ
賣捌所ハ全國到ル處ノ時計店ニアリ

特約一手販賣元
各種時計及金銀附屬品修理器原料
輸入卸商 庵原商店
京都市河原町通三條南入三丁目奈良屋町西側
電話四七壹六番　振替口座大阪八七四番
營業品目定價表ハ御一報次第送呈ス

のみよけねまき

◉のみ、南京虫等の害虫を完全に防ぐ◉體裁優美着心能く洋服下着に最も適當す◉着脱自由にして旅行用に最も適す◉大小便共自由に便じ得るを以て御婦人方にも宜し◉寢冷等の患なし◉幾度洗濯するも差閊なし

代價

	尺	白キャラコ	白綿ネール
壹號着丈	二尺	金八十五錢	金壹圓卅錢
貳號着丈	二尺三寸	金壹圓十錢	金壹圓五十錢
參號着丈	二尺七寸	金壹圓卅錢	金壹圓九十錢
四號着丈	三尺參寸	金壹圓五十錢	金貳圓十錢
四號半着丈	三尺五寸	金壹圓七十錢	金貳圓卅錢
五號着丈	三尺八寸	金壹圓九十錢	金貳圓五十錢

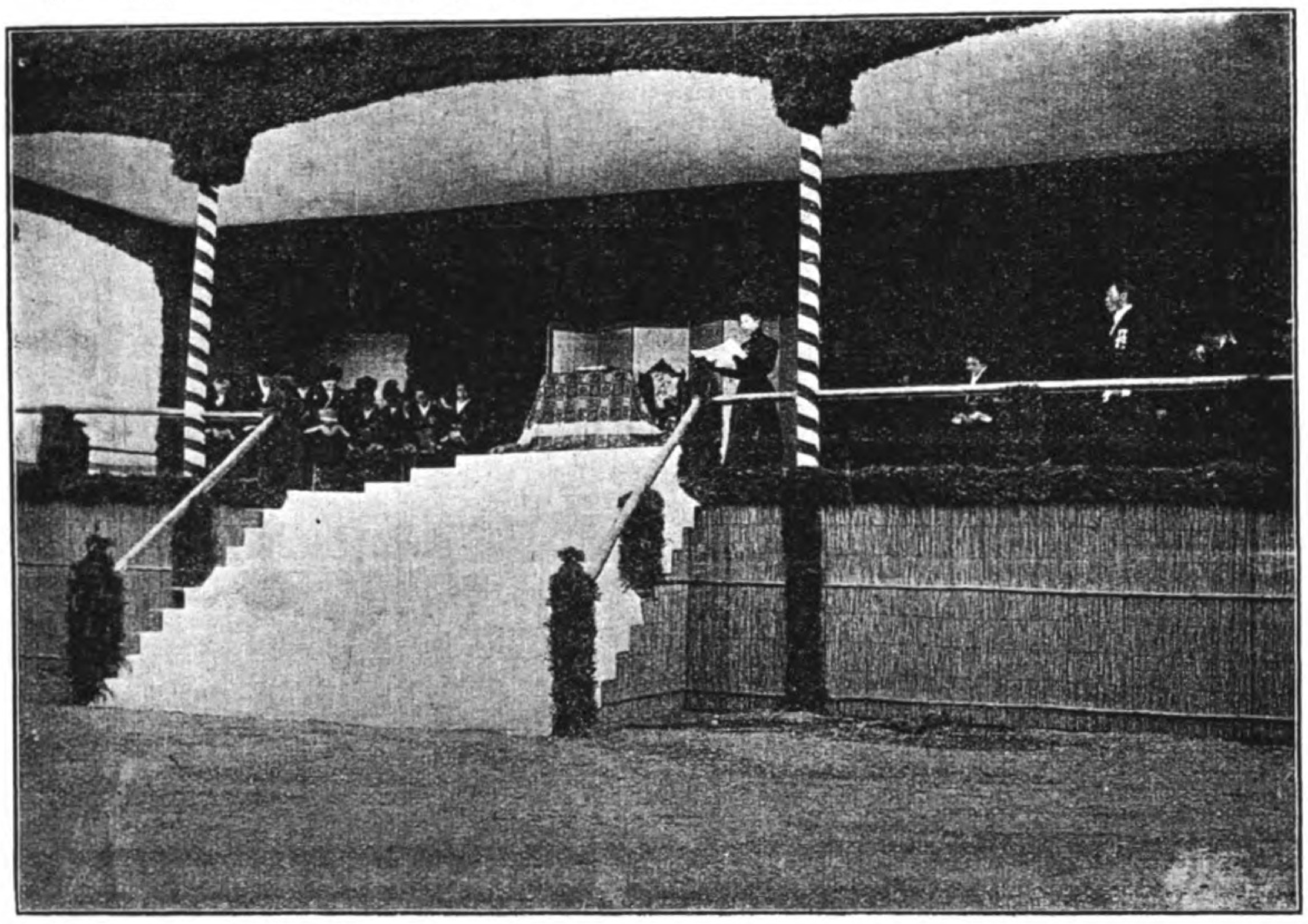
御注文の節は御一報次第代金引替小包にて御送申候
東京市京橋區元數寄屋町二丁目二番地
フタハ商會
電新二七二七、四三六九番

明治四十三年五月廿日發行（毎月五日、廿日二回）（定價金三錢五厘一ヶ月金七錢郵稅不要）發行兼印刷人 山澤俊夫 發行所 東京麴町區飯田町 愛國婦人會發行所 印刷所 東京本所區番場町 凸版印刷株式會社分工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第二百一號附錄

愛國婦人會第九回總會式場　（其一）



同上　（其二）

明治四十三年五月二十日發行（毎月五日廿日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　竹内眞三　麹町區牛ヶ淵　愛國婦人發行所
印刷所　東京市本所區番場町四番地　凸版印刷株式會社分工場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN